

5-1

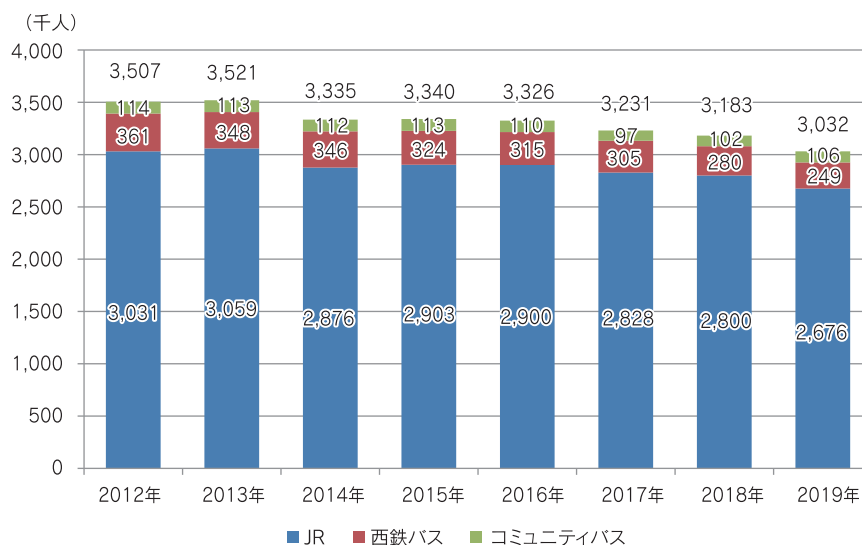
成熟した都市の再生を推進する



現状・課題

- 本町は、豊かな自然や福岡市・北九州市に近い特性を活かしたまちづくりを行ってきました。今後、人口減少・高齢化が進行する中で、住みやすい町を目指し、地域特性に応じた計画的な土地利用を進める必要があります。
- 民間路線バスやコミュニティバスは利用者の減少と路線の維持が課題となっているほか、住民アンケートによる住民の満足度が低いことから、持続可能な公共交通のあり方について検討が必要です。
- 造成されて年月が経過した住宅団地では、老朽化した建築物が増加するとともに、空き家も増加しており、防災・防犯対策と定住促進の観点から空き家の解消、適正管理に向けた取組を行う必要があります。
- 町営住宅は、龍王団地を中心に老朽化が進み、空室が増加しているため、今後のあり方について検討する必要があります。
- 本町の都市基盤の中心である JR 海老津駅周辺は、空き店舗や駐車場など、低・未利用地が多数存在しています。このため、都市のスポンジ化（空き家や空き地が増え、都市の密度が低下すること）対策とにぎわいの創出に取り組む必要があります。

■公共交通利用者の推移



【資料】JR海老津駅・西鉄バス・町都市建設課



施策

施策1 都市の再生に向けた土地利用を進めます

- 人口減少下における町全体の土地利用の方向性を定めるため、国土利用計画や都市計画マスタープランの見直しを行います。
- 地域の特性に応じ、計画的な土地利用による持続可能な都市づくりを進めるため、立地適正化計画を策定します。

施策2 新しい公共交通体系を構築します

- 民間路線バスやコミュニティバスは、住民のニーズを反映した利用状況や民間事業者の動向を踏まえ、新しい公共交通体系を構築します。

施策3 定住を促進するための支援に取り組みます

- 計画的な土地利用による住宅開発の誘導を行うとともに、既存住宅の利活用や多世代の同居・近居に対する支援により、子育て世代を中心とした定住の促進に取り組みます。
- 空き家等対策計画に基づき、所有者・地域・民間事業者・行政が一体となった取組を行い、空き家の予防と解消に努めます。
- 老朽化が進む町営住宅は、入居状況や住民ニーズを踏まえ、中長期的な視点から、そのあり方を検証します。

施策4 海老津駅周辺の活性化に取り組みます

- JR海老津駅周辺は、民間活力を活用して交通拠点機能の強化、まちなか居住の推進、回遊・交流・集いの場づくりをテーマとして、活性化に取り組みます。
- JR海老津駅を快適に利用できる環境整備に取り組みます。

まちづくりの成果指標

用途地域内人口	現状値[2015(平成27)年]	目標値[2030(令和12)年]
	24,698人	24,005人

5-2

安全で便利な都市基盤をつくる

現状・課題

- 交流人口の増加や企業誘致に向けて、町外からの自動車によるアクセスを向上させるとともに、町内における道路ネットワークの充実を図る必要があります。
- 老朽化が進む道路・橋梁や公共施設などのインフラの長寿命化、強靱化が必要となっており、災害にも備えた、安心して使い続けられるインフラの計画的な改修などを推進することが必要です。
- 無剪定の樹木、道路内に枝が伸長した樹木や架空線に接触する街路樹などは危険性を有し、また、景観を損なう大きな要因となっています。安全性を確保するとともに、街路樹と道路空間の美しい街並みを形成するため、街路樹などを適切に維持管理する必要があります。
- 多くの公園は、遊具など施設の老朽化が進んでおり、安全性の確保が求められています。また、高齢化の進行から、地域で行っている公園の維持管理や清掃が難しくなっており、その対応についての検討が必要です。



▲国道3号岡垣トンネル貫通式



施策

施策1 利便性の高い道路交通ネットワークをつくります

- 国道3号岡垣バイパスの4車線化の早期完了に向けて、整備促進期成会と連携し、継続的に関係機関への働きかけを進めます。
- 都市計画道路など主要な幹線となる県道原・海老津線バイパスと県道岡垣・宗像線バイパスの整備に向けた取組を進めます。

施策2 安全で快適な道路・橋梁を整備します

- 町道の計画的な補修や更新に取り組むとともに、橋梁の長寿命化計画に基づく補修など、効率的な維持管理を進め、道路の安全性を確保します。
- 街路樹の適切な管理を行い、道路美化に取り組めます。

施策3 地域が求める公園づくりを進めます

- 老朽化している遊具などの施設点検を行い、公園を安全に利用できるよう整備します。
- 誰もが利用しやすい公園になるよう、地域の実態にあった施設整備と住民との協働による維持管理に取り組めます。

まちづくりの成果指標

都市計画道路の整備率	現状値[2020(令和2)年]	目標値[2030(令和12)年]
	68%	95%

5-3

災害から住民を守る

現状・課題

- 近年、全国各地で大型台風や集中豪雨、大規模な地震などによる甚大な被害が発生しており、これまでの復興復旧を中心とした「事後対策」ではなく、平常時からの「事前防災・減災」の重要性が高まっています。
- 大規模な災害による、河川や排水路などの氾濫・増水や河川護岸の崩壊、浸水被害などのリスクが高まっています。今後も国や県と密に連携し、体制を強化するとともに、災害を未然に防止するための河川や排水路の対策など災害に強い基盤の整備が必要です。
- 高齢者や障害のある人など、災害時に配慮が必要な人たちが安全に避難できるよう、災害時の情報伝達手段の確保や避難体制を構築していく必要があります。また、住民の自助・共助意識を高め、自主防災組織の活性化を図る必要があります。



▲防災訓練（講習会）



施策

施策1 計画的に災害対策を強化します

- 「地域防災計画」に基づき、頻発する自然災害から住民の生命・財産を守るため、防災関係機関や地域との連携強化に取り組みます。
- 大規模な自然災害から住民の生命や生活を守ることができるよう「国土強靱化地域計画」を策定し、「事前防災・減災」の取組を強化します。

施策2 災害に強いインフラを整備します

- 自然災害に備え、必要に応じて河川の護岸工事や浚渫工事、治山事業などのインフラの強靱化を推進します。また、既存団地内の計画的な排水路の改修に取り組みます。
- 林地災害やため池の決壊などの災害を防止するため、県と連携し、改修を推進します。
- 公共施設や住宅などの耐震化を計画的に進めます。

施策3 自助・共助による防災活動を促進します

- 災害時の情報伝達手段となる地域情報伝達無線システム（でんたつくん）や緊急防災無線システムを適切に運用します。
- 総合防災マップにより、災害のリスク・防災に関する情報を周知し、住民の防災意識を高めます。
- 災害時、地域での初動対応や避難に配慮が必要な人たちの避難などを円滑に進めることができるよう、防災訓練の実施を支援するなど各自治区における自主防災組織の活性化を図り、地域の防災力を強化します。

まちづくりの成果指標

自主防災組織の設立自治区数	現状値[2020(令和2)年]	目標値[2030(令和12)年]
	32 自治区	44 自治区
避難行動要支援者制度登録者のうち、支援員がいる人の割合	現状値[2020(令和2)年]	目標値[2030(令和12)年]
	35.6%	50%

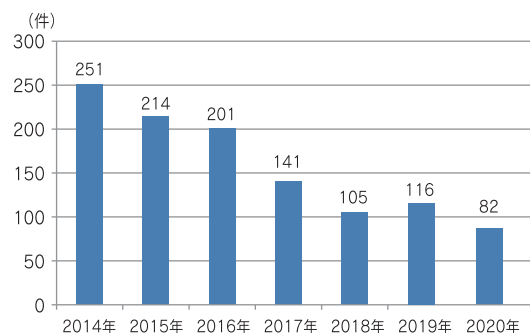
5-4

犯罪・事故から住民を守る

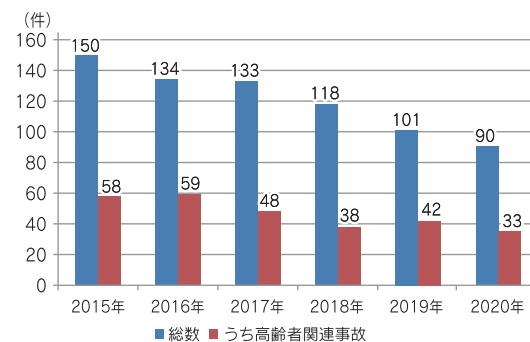
現状・課題

- 近年、刑法犯認知件数は全国的に減少傾向にありますが、悪質な事件の発生などを背景に安全・安心に対する住民のニーズが高まっており、防犯体制の充実が求められています。
- 交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、高齢者が関係する事故の割合が高くなっているため、道路環境の整備や歩行者・運転者の交通マナーアップに向けた取組などが必要です。
- 悪質商法やインターネットを介した架空請求など、消費者トラブルは複雑・多様化しており、相談体制の充実や被害を未然に防ぐための取組が求められています。

■岡垣町内の犯罪（刑法犯認知）件数の推移



■岡垣町内の交通事故件数の推移



【資料】警察統計



施策

施策1 地域の犯罪を抑止します

- 犯罪を防止する環境を整えるため、防犯意識の高揚に向けた啓発活動、防犯灯の維持管理や防犯カメラの整備を進めます。
- 各団体で取り組んでいる防犯パトロール活動を引き続き支援します。

施策2 交通事故から運転者・歩行者などを守ります

- 子どもや高齢者を中心とした住民の交通安全意識の高揚に向けた取組を進めます。
- 安全な道路環境を維持するため、カーブミラーなどの交通安全施設の整備を進めます。

施策3 消費生活問題に対応します

- 遠賀郡4町、中間市との広域連携による相談体制を維持するとともに、消費者被害を未然に防止するため、消費者への意識啓発に取り組めます。

まちづくりの成果指標

交通事故件数 人口千人当たりの発生件数の県内順位	現状値[2019(令和元)年]	目標値[2030(令和12)年]
	5位	4位以内
刑法犯認知件数 人口千人当たりの発生件数の県内順位	現状値[2019(令和元)年]	目標値[2030(令和12)年]
	9位	8位以内

※県内順位は、発生件数が少ない方が上位となる